スペシャルサポートルーム　ルームエフ

ＳＳＲやroomＦを活用した不登校の児童生徒への支援について

資料５

教育庁義務教育課

【本県の現状と課題】
- 不登校児童生徒（県内の国公私立の小中学校）※R5文科省調査結果より
  ４，３３８人（１，０００人当たり３３．６人）　１２年連続増加傾向
- 文科省調査で把握した状況と不登校要因
  調査で把握した事実として、主に「学校生活に対してやる気が出ない等の相談があった。」、「生活リズムの不調に関する相談があった。」、「学業不振や頻繁な宿題の未提出が見られた。」が挙げられた。
  また、特別な支援を要する児童生徒等、複合的な要因もきっかけに。

【子どもの特性や、様々な事情などによる要因】
- 集団行動が苦手
- 人間関係が苦手
- 周囲の環境音が苦手
- 起立性調節障害の症状等により朝が苦手
- 学習ペースがゆっくり
- 音声による説明では理解が困難
- 学習や運動に自信がない
- 子どもの特性への周囲の理解不足　等

【現在置かれた状況で安心して居られる居場所がないための不安】
- 意思はあるが、教室復帰に対する不安による登校しぶり　等

不登校児童生徒の多い学校等に対して、専門性の高い教員を専任で加配

R6は30校+7校※　※特例定員による配置

SSR専属の教員を配置し、学習や生活を支援

〇特別支援教育に造詣の深い教員
〇生徒指導・教育相談の力量が高い教員
〇個別の学習指導で児童生徒を伸ばす教員
〇校内SSR推進委員会による学校組織が一丸となった支援体制の構築

＋

スペシャルサポートルーム(SSR)の開設・充実

〇不登校児童生徒の校内の居場所づくり
〇空き教室等を活用して魅力的な環境をつくる
〇安全・安心が確保された空間づくり
〇教室復帰前の中間的な居場所としても

＋

個別の学習計画による支援

〇「一人なら学習できそう」「分からないところを丁寧に教えてほしい」「一日おきなら学校に来られるかも」
〇児童生徒の実態に応じて学習計画を作成し、個々の状況に応じきめ細かに対応
〇自己決定、自己選択の機会を設定する。

～県の支援等～

〇SSR実践校連絡協議会やSSR担当者オンラインミーティングの開催による、各校担当者と所管教育委員会同士の情報交換、研修の場の設定
〇SSR取組の成功事例の普及

不登校児童生徒の学習機会を確保し、将来の社会的自立へ

～学習機会の確保～

〇一人一人に応じた学習計画、支援計画により、不登校児童生徒の将来の社会的自立を目指すための学習の機会を確保する
〇ＩＣＴを活用した個別学習

一人一人の特性理解と適切な支援が推進される学校マネジメントが重要！

ＳＳＲや roomＦ を活用した不登校の児童生徒への支援について

不登校児童生徒支援センター「roomF」のオンライン通級

教育庁義務教育課

資料5

オンラインを活用し、学習相談支援、学習支援や児童生徒同士の交流支援を通して、不登校児童生徒の個々の社会的自立を援助する。

【モデル地区から全県へ】
令和5年度：2市町
令和6年度：7市町村
令和7年度：全県対象

不登校または不登校傾向
児童生徒

数ある選択肢の1つとして

「オンラインの居場所」

家庭から参加しやすいオンライン上での支援

学　校

別室登校
時間差登校
保健室登校
SSR登校

学校との
連携・協力

入級手続き
活動状況提供

併用可

学校外

教育支援センター（市町村）
フリースクール
その他支援機関等

併用可

市町村教育委員会

roomF を学校へ周知

オンラインシステム運用についての学校支援（機材、システム設定変更等）

情報共有

地教委との
連携・協力

オンライン通級

アバター

アバター名で参加
カメラ・マイクはオフ

メタバース内「roomF」

①オンラインプログラム

1コマ 40 分、午前2コマ、午後3コマ＋α

午前：　社会的自立を促すプログラム
スタッフや参加者とのコミュニケーションを中心としたプログラム（小・中学生対象）
例：参加型ゲーム、スタッフが外から行うオンライン中継の視聴など

午後：　学習プログラム
- スタッフによるオンライン授業（国・数・英）（中学生対象。一部は小学生も）
- スタッフによるオンライン授業（リクエストがあった場合実施）（小・中学生対象）

非定期イベント
参加型のイベントを企画して実施。

②オンデマンドコンテンツ

スタッフや外部協力者が作成、または外部支援団体が提供している動画をメタバース内に配置し、自由に視聴可としている。

例：絵本の読み聞かせ、実験・体験動画、県が作成した防災動画や、外部支援団体が提供している動画など

③アバター同士の交流

メタバースになったことにより、アバター同士の交流（チャット、リアクションボタン、音声、映像）が可能。利用についてのマナーを記した注意書きを配付している。

【令和5年度】
オンライン会議システムを活用して①のプログラム提供開始。広島県との配信プログラムの共有。
【令和6年度】
6月からメタバースに切り替え、①～③に加え、外部連携サービス等の利用開始。

連携
併用

外部連携サービス等

①キャリア教育、生き方を考える学習
福島県教育委員会と InspireHigh 社の連携協定に基づき、InspireHigh 社が提供する様々なジャンルのゲストのライフストーリーに迫りながら、自己の生き方を考えるプログラム。

②個人で学習できるコンテンツの提供
メタバースと同一のアカウントで学習ポータルサイトからリンクしている学習支援サイトのサービスを利用し、個人で学習することが可能。

③他県との連携
広島県や三重県との連携。配信プログラムの共有等。